

「学び、闘い、そして学ぼう！」

千葉研修講座

労働千葉 第1回研修講座開始



黒板に図を描きながらわかり易く解説する竹内講師の講義に参加者は真剣にくりについて勉強した。

まず、本部役員から……

竹内、村越両講師を招いて熱心に学習

「学び、闘い、学ぼう」という、第七回定期大会方針のもと、「旗びらき」よりももう一足早く一月十日動力車会館において「労働千葉第一回研修講座」が開催されました。ゴリゴリ学んでバリバリ闘おう！：：というところで、本年は計五回の研修講座が予定され、本部・支部・分科等の役員・活動家を対象に適宜テーマを設定し、講師を招いて全一日みっちり勉強します。一年の計は元旦にあり：：、今回はそのトップをきって本部役員がそろって、午前十時より午後五時まで、東洋大学・竹内良夫教授と経済学者・村越敬二氏の二講師より講義をうけ、黒板を熱心にノートするなど、終日真剣な学習がおこなわれました。

体制変革以外に労働者の解放はない

「資本主義と合理化」で竹内氏が講演

第一課題として「資本主義と合理化」について、東洋大学・竹内教授よりの講義をうけました。竹内氏は、まず資本主義の原理について図を示しながら、わかりやすく説明されました。

すなわち、資本主義体制において生産手段を奪われている労働者階級は、日々自分の労働力を切り売りすることによってしか生きる手段を与えられておらず、常に搾取され抑圧される存在として、本質的に資本家階級と相対立する関係にあり、どんなにその外形が変

化したかのように見えても、労働者階級が生産手段を奪い返さない限りこの本質的な関係は変わらないこと。そして生産力を発展させればさせるほど労働者の地位は低められ、「利潤」追求のみが唯一の目的・行動原理である資本は争って合理化に全力を注ぎ、労働者の賃下げ・労働強化・失業・飢死に比例して資本は肥え太り、もっと大規模に苛酷に労働者を搾り取り一層肥え太ってゆく。

日本の歴史を動かす力に転化するものこそ三里塚闘争

「われわれをとりまく情勢」で村越氏が講演

第二課題は、「われわれをとりまく情勢」について、村越氏より講義をうけました。

村越氏は、次の三点の具体的事象をあげて、八三年が歴史的激動の年となるのみならず、あらゆる問題をめぐって人民と支配者の激突が不可避となることを指摘しました。

第一に、最初から完全破綻している「八三年度予算」。：：50兆円予算のうち収入見込は32兆円にすぎず、この大巾赤字は国債借入金に頼るが、それもとくに限度を越えている。結局、行革・増税と

いう労働者人民に犠牲を転嫁する道しかない。

第二に、中曽根の登場で、いよいよ戦後の総決算をかけた「改憲」攻撃が政治日程にのぼってきたこと。支配者と人民は真向から激突せざるをえない。

第三に、日米間の対立を最大の緊張軸として、世界は急速に戦争的対立状況につき進んでいること。今日、アメリカ、ヨーロッパでは第二次世界大戦前夜の一九三〇年代をしのぐ大不況と巨大な失業者群が生み出され、しかも日々それは増大し続けて

(裏面につづく)

日刊
労働千葉

83, 1, 13

No.1240

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)〇四七二(22)七二〇七